

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393100074		
法人名	学校法人さくら学園		
事業所名	グループホームじけい 夕日		
所在地	安城市西別所町中新田20		
自己評価作成日	令和6年2月11日	評価結果市町村受理日	令和6年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を作りながら利用者の方と共に生活している / 退去されたご家族とも関りがある
 極力利用者の希望に沿う様に努めている(犬を飼っている方がみえる)
 地域の祭りや行事、発表会に積極的に参加している / 隣にある幼稚園や学校と交流がある
 行事が多くご家族も一緒に参加できるイベントが多い(大掃除) / 喫茶で地域の方と交流がある
 買い物や、その季節に合った場所、ご意向に合わせて外出する事が出来る(花火・花畑) / 普段外出が難しい方も外出する事がある
 利用者やご家族の意思をしっかり尊重して介護をしている / ご家族との連絡が密
 ご家族や地域の方が出入りしやすい 入居者とスタッフが協力し日常の家事を行っている
 入居者さんそれぞれの残存機能を活かした日常動作を積極的に取り入れている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=2393100074-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和6年2月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所に「慈愛・誠心・共生」という理念を貼り、いつでも誰でも見れるようにしている 地域の方にも参加して頂ける行事を開催している 地域の方にも親しんで頂ける様にオープンにしている、地域に溶け込む事が出来ている 町内の行事にも積極的に参加している 入居者さんのペースで家事をして頂いている 年度初めに理念の確認を行う		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ホーム内の行事(月1回の喫茶)などに町内の方が遊びに来てくれたり、出演(歌や踊りを披露してくれた)している。 ホーム内の避難訓練に町内の方々が参加してくれている 地域のイベント(神社の掃除やお参り、お祭り、サロン、発表会、作品展示)に参加している 地域の学校や幼稚園との交流がある 散歩で出会うと挨拶を交わす 地域の小学校の認知症の学習会に入居者さんが講師として参加した		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が地域の「認知症サポーター養成講座」に講師として参加し話をしている 地域の小学校の認知症の学習会に入居者さんが講師として参加した 月1回の喫茶に地域の方が遊びにみえて、認知症の方と交流をする事がある 月1回の喫茶で演芸を披露して頂ける事がある 運営推進会議などで認知症について話をする事がある 社協の方と認知症サポーターの方が見学にみえた 地域のイベント(神社の掃除やお参り、お祭り、サロン、発表会、作品展示)に参加している 町内の方の相談に乗る事もある 車椅子の操作方法を町内の方に伝え、体験して頂いたラジオ体操のスタンプを押す係を入居者さんが行い、子供たちと関わった 運営推進会議には入居者さんも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議ではじけいの状況を細かく説明し、様々な意見を頂き活かしている 年に1度日曜日に開催し、多くのご家族が参加している 町内会長・民生委員・福祉センター・地域包括・市役所の方が参加し、アドバイスを下さる 会議には入居者さんも参加し、時々ご家族も参加されたり、アンケートでご意見を下さる 会議の内容はスタッフ全員が議事録に目を通し把握している 事故・ヒヤリハットに対するご意見も活かしている 避難訓練では多くの意見を頂いた		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	感染症の発生、事故など起こった時には細目に連絡を取っている 介護事業者に対し年2回行われる市の説明会に参加している(今回はオンライン開催) 推進会議に市役所の方も参加している 市のお祭りに参加している 町内会に参加し、管理者が町の評議員会議にも出席している 町内会長とはLINEでも連絡がとれるようになっている 市役所の方、町内の方(会長さん、民生委員さんも含め)が、ホームの避難訓練に参加してくれる 介護相談員さんを受け入れている コロナ禍で、訪問販売業者(とくし丸)を紹介してもらって活用している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月抑制拘束適正委員会を開催し、結果を毎月のスタッフ会議で報告している。 抑制拘束の方がみえなくても、『もしこんな事があったら』と、事例検討を行っている。 年に1回身体拘束の勉強会を行っている。 玄関の鍵は開いていて、外に出たい方はスタッフが付き添い外に出れるようになっている。 夜間ずっと居室に居る事が出来ない場合は一緒にフロアで過ごす様にしている。 身体拘束になる具体的な行動を正しく理解する様に努めている。 必要な場合にはセンサーマットやドアセンサーを活用している。 居室に鍵をかけない、ベッドは4点柵にしない。 勉強会で理解を深め、身体拘束に対する理解を深め、安全面を考慮しながら取り組んでいる。 物理的な拘束だけでなく、スピーチロックなど、言葉の拘束も気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に1回虐待防止の勉強会を実施している。会議に参加しないスタッフも議事録を読んで学んでいる。 小さい内出血があっても報告書を記入し会議などで原因を確認している。 困った事をすぐに相談できる環境づくり。 言葉での虐待を行わない、相手を不快にしない様に言葉遣いに気を付けている。 入居者による暴言暴力があっても、無理をしないケアを心掛けている。 毎月抑制拘束が無い確認し、情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している入居者が増えている。 制度利用している方の相談を受けたりしている。 個々の人権を尊重し支援を行っている。 自己決定が困難な方はご家族に相談し判断している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者やご家族に対し、しっかり説明し、同意を頂いている 十分な説明をし、不安や不明な点等ある際は説明し納得して頂くようにしている 入居前からLINEなどを活用し、ご家族が不明な点等を聞きやすい関係、状態を作る様にしている 契約内容の改定時は、重要歯垢説明書を更新し説明を行い承認を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2ヵ月に1回行われる運営推進会議のお知らせに、アンケートを付け、会議に参加出来ない方からもご意見があれば伺える仕組みを作っている。 運営推進会議の多くは平日開催だが、年に1回、多くのご家族が参加しやすい様に日曜日に開催し、ご家族の生の意見を頂いている。また、参加した市町の方々にも聞いてもらっている。 月に1回、スタッフと入居者さん、ご家族と一緒に食事を食べる機会を作っていて、そこで色々なお話をお聞きする事が出来る。 頂いた意見は書類に残し、スタッフに周知している。 運営推進会議・スタッフ会議で、外部内部と共有し改善の取り組みが出来る様にしている 管理者がLINEなどでご家族がご希望される事をお聞き出来る体制を作っている 3ヵ月に1回、介護計画を見直す際には必ずご家族からご要望を伺い、計画に反映している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の会議で情報交換を行ったり、必要な時は直接面談を行って意見を聞いている スタッフ全員とLINEが繋がっていて、情報交換が出来る様になっている 会議や、平日頃からも、意見などあれば管理者やリーダーに伝えている。 話しやすい雰囲気があるので、いつでも意見が言いやすい。反映されている。 年2回アンケートがあり、意見や提案を聞き取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	パートさんの休憩時間の見直しを行った。 年2回、自己評価・自己アピール点をアンケートに記入し、それを元にスタッフの頑張りを評価している。努力した事を伝える機会がある。 職場の雰囲気を明るく働きやすい環境にしてくれる。 各スタッフの家庭環境に合わせ柔軟に労働時間を配慮し、子育てしながらも働きやすい。 スタッフの家庭の事情に配慮しながら勤務を組んでいる。 有休がしっかり取れる。 介護時は時間外手当が出る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には必ず研修を行っている。 月1回スタッフによる勉強会を開催している。 スタッフに不安な事を聞いたり、スタッフ同士で情報共有が出来ている。 研修内容を議事録で報告したり、会議で内容を共有している。働きながら知識技術の向上が出来ている。 希望があれば外部の研修にも参加している。 市が行う研修会(医師会・安城市)に参加 法人内で行われた研修会に参加 自己評価を年2回記入し日々のケアを反省し、次に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム部会で他事業所と交流をしている また、会議の内容を全スタッフが確認している 他施設から見学に来る事がある 安城市が行う福祉祭りに参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人とご家族にお会いし、お話しをし、ご希望や不安な事などをお聞きする機会を作っている 趣味や好きな食べ物の話を伺い、入居の日には歓迎会を行い、ご本人が食べたい物をご用意している。歓迎会にはご家族の参加もお誘いしている。 入居前に施設のイベントに参加してもらう事もある 今までの生活が入居後も継続できるようにしている(犬のお世話など) 入居前にADLなどの情報を得る様にしている 普段の会話などから、さりげなく言った言葉を記録に残しケアプランに活かす様にしている その方のペースに合わせた声掛けを行う 3か月に1回は、ご本人、ご家族のご要望や困りごとを聞く機会を作っている 細目にコミュニケーションをとって情報を共有している 楽しみが持てる様、行事やレクへの参加を促している ご要望を聞くだけでなく提案も行う		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご本人とご家族にお会いし、お話しをし、ご希望や不安な事などをお聞きする機会を作っている 趣味や好きな食べ物の話を伺い、入居の日には歓迎会を行い、ご本人が食べたい物をご用意している。歓迎会にはご家族の参加もお誘いしている。 入居前に施設のイベントに参加してもらう事もある 3か月に1回は、ご本人、ご家族のご要望や困りごとを聞く機会を作っている スタッフ間で情報を共有する お一人暮らしで犬のお世話をしてみえた方が入居された時は、犬のお世話も一緒に引き受けた 家族と常に情報共有できる様にLINEなどを活用している 入居後すぐには、心配されない様に、ご本人の様子を、写真や動画で送りお知らせし、安心して頂ける様にしている 細目に足を運んで下さる方が多いので、都度お話をお聞きし関係を築く様にしている 月1回の大掃除(食事会)や、ご家族参加の行事が多く、スタッフとご家族が親密になれる機会を多く作っている 話しかけて頂きやすい雰囲気作りに努めている、せかせかしない 運営推進会議のお知らせにはアンケート用紙を付け、ご意見を伺っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	訪問マッサージや歯科往診など、その時必要と思われる支援を取り入れている 普段の言動をしっかり見て対応に努めている 情報共有シートを活用している 本人の趣味、やりたい事など積極的に取り入れている(読書・編み物・植物、ペットの世話) 入居申し込みの方でも、まだ在宅で暮らせそうな方は他サービスの紹介をしたりする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その方の特技を生かした活動を見つけ、実施し、その事を皆で称え、尊敬している(元小学校の教員だった方が小学校の授業で教壇に立ち授業をしたなど) 生活をする上で入居者さん個々が出来る事の把握を行い、会議で検討し、洗濯、調理、片付けなど役割を持って生活して頂いている 『一緒にやっている』気持ちが持てる様に支援している ゴミ捨てには一緒に行く 日々のコミュニケーションを大切にし関係を築いている 理念の『共生』を念頭に感謝の気持ちを持ち、共に暮らす雰囲気大切にしている 全員が家事に関わる様に支援している 家族の様に接している 親しみを持って頂ける様に接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に1回行事、大掃除では、ご家族と一緒にじけいの共用部分や、ご本人のお部屋を掃除し、皆で一緒に食事の準備をし、一緒に食べる。グループホームをご家族も含め、皆で綺麗にして行く気持ちを持って頂いている。 日頃からのコミュニケーションで関係が築け、ご家族様も『皆で一緒に支える』気持ちを持って下さっている。 ご家族が他入居者さんの為に、その方が好きな食べ物を持って来て下さった方もみえる。 細目に入居者さんの様子を連絡し、時に写真を送り、安心して頂いている。 入居者さんにご家族が直接電話でお話をする事もある。 誕生日・母の日・敬老会・お祭りはご家族も交え皆で一緒にお祝いする。 これまでの生活背景を把握し、家族やふるさとの話をする。 3カ月に1回担当スタッフから近況をお知らせする手紙を送る。 ご家族と交換日記をしてみえる方もみえる(現在はスタッフとのやり取りが主になって来ている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	<p>今まで独居で老犬のお世話をしてみえた方が入居の際、老犬も一緒に入居し、入居後も犬のお世話を継続している。</p> <p>昔、長年働いて来た小学校で再び授業をする機会が作れた。小学校の子供たちとの関係が築け、手紙のやり取りや、歌のプレゼントをもらったりした。</p> <p>昔よく買い物に行っていたお豆腐屋さんにお豆腐を買いに行った。</p> <p>お墓が気になる方とお墓参りに行った。</p> <p>安城市の昔からのお祭り七夕祭りに遊びに行った。</p> <p>ご家族、親戚、友人がご面会に来やすい雰囲気を作っている。</p> <p>入居前に通っていた美容院に行ったりする。</p> <p>昔好きだった食べ物を提供する機会を作る。</p> <p>住んでいた所の近くのスーパーへ買い物に行く。</p> <p>住んでいた 家にたまに帰って近所の方と交流したりした。</p> <p>ご本人が今まで使っていた家具を持ち込んで頂く。</p> <p>近所の方が訪ねて来やすい行事(喫茶)の開催</p>		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	<p>仲の良い入居者さんがお亡くなりになった時は、入居屋さんと一緒に葬儀に参加した</p> <p>看取りの方がみえたとき、入居者さん皆でお部屋に歌を届けたり、声をかけに訪室したりした。</p> <p>看取りの方が食べたい物を手に入れる為、他入居者さんのご家族が協力して下さり、好きな物を用意して下さった。</p> <p>お散歩などに出掛ける時は、入居者さんがすすんで車椅子を押して下さったり、手をつないで歩行の手助けをしてくれる事がある。</p> <p>コミュニケーションが難しい方にはスタッフが間に入り関係を築くお手伝いをしている。</p> <p>皆で外出する事がある(お花見・紅葉・秋桜)</p> <p>掲示物を一緒に作り関りの機会を作る</p> <p>皆で食事・レク・行事を行う</p> <p>相性を考えて食事の席の配置を考える</p> <p>家事を皆で行う。</p> <p>ユニットを超えた交流も出来ている。</p> <p>入院された方へ皆で寄せ書きをした</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お亡くなりになり退去された方のご家族が、その後も慰問に来て下さる じけい10周年のお祭りには、お亡くなりになり退去された方のご家族からお祝いのお花が届いたり、遊びに来てくれたりした、また、退去されたご家族が沢山遊びに来てくれて懐かしいお話が出来た 退去された方の親戚の方が入居の相談にみえた 他の施設へ移られた方がお亡くなりになった時、お通夜に参加した		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	看取りに入った方が『死ぬまでにやりたい事』を聞き取り、沢山の想いを皆で叶えた(蟹・花火・お花見) 最低3カ月に1回は、ご本人、ご家族からご希望される事をお聞きする機会を作っている ご本人が希望を伝えられない方は、その方のこれまでの生活や性格を踏まえた上でご希望を察する様にしている 食べたい物、行きたい場所などお聞きし、ご希望を叶える様にしている 愛犬と入居された方がみえる 日々のコミュニケーションから思いを汲み取れる様にしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の調査で、ご本人、ご家族、他サービス事業所から聞き取りを行い把握に努め、全スタッフに周知している 日にの暮らしの会話から知る事が出来る 愛犬と一緒に入居された方もみえる 今まで使用していた家具など持って来て頂き使用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	記録ソフト『ほのぼの(iPad)』を活用し、一人一人の生活の様子を記録し、スタッフで共有している。 日々の関りや、家事のお手伝いへの参加の様子などから心身状態、有する力などの現状把握をしている。変わった事があれば記録に残し、ご家族、主治医に連絡をしている。 体力が落ちてきた方には、お部屋で休む時間を作るようにしている。 定期的にバイタル測定、体重測定等を行い記録に残している。 いつもと様子が違うと感じた時はバイタル測定をし対応をしている。 その方に合った体操やリハビリを行っている。 一人一人の過ごし方を尊重している。 会議で『一人一人が出来る事』を考え、役割を考えている。 危険があった時はヒヤリハットを出し、事故予防に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの更新時には、ご本人、ご家族の希望を聞き取り、スタッフからの情報を集め、かかりつけの医師などから頂いたアドバイスを元に会議で話し合い計画を作成している。 子供が好きな方には触れ合う機会を作るようにしている。 ケアプランに対するケアの実施チェック表を作成し、日々の実施状況を確認した上でモニタリングをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに対するケアの実施チェック表を作成し、その記録を元にケアの見直しを行っている。 日々の状態の記録、気づきを『ほのぼの(iPad)』に残してスタッフ間で情報共有している。 状態変化の重要注意事項は記録に残した上でスタッフ間で口頭でも申し送っている 危険な行動がある方は、ヒヤリハットを記録し事故予防対策を都度行う		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	老犬と暮らしていた方が、入居後もその暮らしを継続できる様に犬も一緒に入居した ご高齢のご家族がご面会の時は、駅まで送り迎えを行う事がある ボランティアさん(絵手紙、習字、編み物)や、訪問マッサージさん、訪問看護など、じけい外の方の力も借りながら、各入居者さんのご希望が叶えられる様にしている 家族に会いたい方には電話でお話しして頂いたり、花が見たい方や外食したい方は外出の機会を作ったり、小説が読みたい方を図書館にお連れし、希望の本を借りたり、お墓参りにお連れしたり、食べたい物を食べる機会を作ったり、と、その時々生まれるニーズに対応して来ている LINEを活用し、日々の様子を、写真や動画などでお知らせしている 地域の方から認知症の理解を深めるための講義を願ひされ、認知症サポーター養成講座を行った 喫茶店を開催し、地域の方と交流する機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアさん(絵手紙、習字、編み物)や、訪問マッサージさん、訪問看護など、じけい外の方の力も借りながら、各入居者さんのご希望が叶えられる様にしている 地域の方のお力もお借りし、ホーム内の避難訓練に町内の方も参加して頂き、いざという時は助けを求められる様な関係を築いている 町内の行事(神社掃除・お祭り、サロン、芸能発表会)に積極的に参加している 喫茶店を開催し、地域の方と交流する機会を作っている 元学校の先生が、また小学校で授業をする機会が作れる様に、地域包括支援センターに相談し、地域の小学校とのご縁を作って頂き、小学校で授業を行った、元教員の能力を発揮できた 歌の好きな方が地域の祭り、学園祭、保護猫イベントなどでステージに立ち歌声を披露した 成年後見人制度の利用		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時ご希望のかかりつけ医をお聞きする様にしている 施設スタッフが同行しない病院への受診の場合は、日頃の状態が分かる様に書類で情報提供をする様にしている 急変があればいつでもかかりつけ医に連絡し指示を受ける事が出来る様にしている 細かい事も相談に乗ってくれるかかりつけ医が居る 入居者さんの様子を細目にご家族に伝え、相談し、受診、往診の結果はしっかりご家族に報告している 内科・歯科往診がある 必要に応じ皮膚科・整形・外科、かかりつけ医以外の受診も行う		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤の看護師は24時間オンコール対応で、急な状態変化(傷・内出血・便秘・体調不良)にも相談対応可能 介護職が困らない様に2カ月に1回看護師による勉強会がある 日々の状態を報告・連絡・相談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さんの最新の状態を記録した『ケアのポイント』を毎月更新し、入院時は病院にその情報(じけいでの状態や身体の状態)を提供している 退院可能な連絡があった時は、最短でその日の内の退院にも対応している 退院の情報は全職員が見れるようになっている入院時は病院での状態把握に努め、状況をLINEなどで全スタッフに共有している 入退院時には必ずスタッフが付き添い送迎や、入院時必要な物品の準備などのサポートも行っている 退院カンファレンスが行われる時はスタッフも参加し、必要に応じ協力医の先生にも参加して頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した時の対応のご希望を伺う。また、実際に重度化した時には、細目にご要望をお伺いし、じけいで出来る事、出来ない事を説明している。 看取り期に入った方、ご本人とご家族からご要望を伺い、『死ぬまでにやりたい事ノート』を作りご希望を叶えた。その時、『お祭りが見たい』というご要望を叶える為に、町内の方がお神輿を貸してくれて、幼稚園の園児も協力してくれて祭りを盛り上げた。 看取り期に入り、医療的なサポートが必要になった時、かかりつけ医、訪問看護など、他のサービスと協力し合い支援を行った 看取り期に入り、ご家族が宿泊される事もある 看取り期に入っても寂しくない様に行事に参加してもらったり、良い環境で過ごせる様に、お部屋を飾ったりした 看取りの勉強会を行っている。看取り後反省会を行い今後のケアに活かしている。 状態が良くない時は細目にご家族、主治医を交え、今後の方針を擦り合わせる時間を作っている 終末期にはご本人、ご家族のご要望を聞き、要望書を作成し、ケアプランの見直しを行う、それを元にスタッフ間で共有し支援を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年1回救急時の勉強会を行い、AEDの使い方、窒息時の対応、心肺蘇生法、怪我の対応の仕方を体験している 急変時のマニュアルがある		
35	(13)	○災害対策	BCPマニュアルがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の方にじけいの避難訓練に参加して頂いている 地域の防災訓練にも参加している 年2回避難訓練を行う、夜間想定避難訓練を行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年に1回必ず言葉遣い、接遇についての勉強会を行っている 親しくなったら少し砕けた言葉遣いもするが、基本敬語で話している 一人一人に合わせた声掛けをしている 本人の同意を得て介助を行なっている 否定的な言葉を使わない様にしている 家事をして頂いた時は必ずありがとうと声を掛けている 特に、入浴、排泄介助はプライバシーに配慮した声掛けを行っている 排泄の事など、大きな声で話さない その方の尊厳を守りながら支援を行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	最低3カ月に1回、入居者さんとご家族から希望要望の聞き取りを行い、ケアプランに反映させ、実行している。 希望が表現出来ない方には、担当スタッフが思いをくみとっている 食べたい物、着たい服を選んだりなど、些細な事もご本人の意思に基づいた支援を行う様に心掛けている トイレ、お風呂のタイミングなど、なるべく本人に訪ね、自己決定を促す 入浴は、ご自分では入れる方は好きな時に入って頂く 見たいテレビを見て頂く、食材を選んで頂く 意思を表しやすい環境や言葉がけに努めている。また、選択しやすいように提示などし、決定できる機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居屋さんの希望によって、臨機応変に日程を変更して出掛けたり、食事のメニューを考えたりする事がある。 本人とためにコミュニケーションを取り、また、全身状態をみながら支援が出来る様に努めている TVを見たり、居室で休んだり、好きなタイミングでお風呂に入ったり、ご飯を食べたり、一人一人のペースに合わせて対応している。 今の思いを大切に希望に沿って支援する事を心掛けている。 自宅で犬と暮らしてみえた方が今も犬のお世話を続けている。 幼稚園の子供を見たり、ピアノを弾いたり、歌ったり、好きな音楽を聴いたり、読書したり、編み物を各々好きな過ごし方をしている。 外に出掛けたい方にはスタッフが付き添い出掛けている。 朝好きな時間に髪を洗ってみえる方がみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝お化粧される方がみえる ご自分で選べる方には着る服を選んで頂く 季節に合った服装が出来る様に支援している スタッフがサポートしてお化粧をする方もみえる 月に1度訪問美容が来て好みの髪型やカラーをしている 外出の時はオシャレな服を着て出掛ける ご自分で出来ない方には、髪を解かしたり、お顔を拭いたり、身だしなみを整える 眉を書いたりマニキュアをしている方もみえる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好きな物を本人やご家族にお聞きし、買い物時に購入したりして料理に取り入れている。 準備、片付けをなるべく一緒に行う。 個々の状態に合わせて、安全な食事形態の(普通・刻み・超刻み・ミキサー・ムース)食事を提供し、食べたい物が食べれる機会を作っている 季節感も大切にしている 味見をしてもらったり、好きな味付けを聞いている 月に1回ご家族と一緒に食事をする機会がある 外食や出前の機会もある 食事の席は、相性などを考え決めている スタッフも一緒に食事をしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事のメニューを管理栄養士に見てもらいアドバイスをもらっている 一日の水分、食事量を記録に残し、必要量が摂取出来る様に働きかけている 食べやすいように個々の状態に合わせた食事形態を工夫している(普通・刻み・超刻み・ミキサー・ムース・トロミ使用など) 水分摂取量が少ない方にはお茶ゼリーを作る、容器を変更するなど工夫している 摂取量が少ない時は、ご家族にご協力頂き、電話で声をかけてもらう事がある 捕食なども用意がある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご希望者は週に1回訪問歯科さんにみてもらっている スタッフは訪問歯科さんからのアドバイスを聞き、口腔ケアに役立てている(月1回の会議時勉強会を行っている) 起床時、毎食後口腔ケアを行っている。 難しい方はやり方をスタッフ皆で方法を相談したりして危険が無い様に実施している 1人1人に合った道具(スポンジブラシ・口腔ティッシュ・ポイントブラシ)を使い清潔を保持している うがいが出来なくなった方には口腔ケアティッシュで仕上げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	紙パンツを使用してみえる方が入居後トイレ誘導する事で布パンツで過ごせるようになった 寝たきりの方も出来る限りトイレに座る時間を作るようにしている 排泄の情報は記録に残し、スタッフ同士情報を共有し、排泄パターンを把握できる様にしている 個々に合わせた時間でトイレ誘導を行っている 排便が何日も無い方は長めに座って頂いたり、マッサージしたり、看護師に相談をしている 気持ちを口に出来ない方は、ソワソワしたりする行動を見てトイレを案内したりしている 頻尿で夜寝れない方は、医師に相談し薬を処方してもらったりする		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の体操や牛乳、ヨーグルトなどの提供をしている。 スタッフの勉強会で便秘について学んだ。 排便状況を記録に残し把握している。 オムツの方もトイレに座る機会を作り、腹部のマッサージを行う事もある。 排便の無い方を散歩に誘い、運動を促す様にしている。 対応しても出ない場合は医師に相談し薬を処方してもらっている。 お茶をルイボスティーにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	ご自身の希望で、毎日夜寝る前にシャワーをしている方がみえる 個々の気持ちを大切に、気が向くタイミングで入浴して頂いている 拒否がある方には無理はせず、時間やタイミングを変えたり、電話でご家族から勧めてもらう様に工夫している 音楽が好きな方には入浴中音楽を聴いてもらったりしている 身体が汚れた時には、都度入って頂く様にしている ゆっくり湯船につかり身体を温めてもらっている 希望の順番を仰られる方もみえる		
46		○安眠や休息の支援	その日の気温に合わせて、室温を調節したり、加湿器を使っ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	たり、季節に合った布団、パジャマなどに気を配っている 消灯時間はあるが、眠る時間は人によって違う、早く寝る方もみえれば、TVを見て過ごす方もみえる その日の状態や、それまでの生活習慣に合わせ、好きな時間に休息してもらっている ご自分で体位を交換できない方は体位交換を行っている 体調に合わせて昼寝の時間を作っている 眠れない時は話を聞き不安を解消している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診、往診の記録はスタッフ間で周知しており、薬の情報、増減の変更を確認している 薬一覧表があり、誰が何の薬を飲んでいるか一目で分かる スタッフが服薬の支援を行っている。間違いがない様に必ずトリプルチェックを行っている。 薬の作用、副作用の説明書をファイルに入れ、いつでも見れる様にしている 薬の変更時は、その後の状態をしっかりと観察し記録を残している 薬についての勉強会を行った		
48		○役割、楽しみごとの支援	元学校の教員だった方が残存機能を活かし、また小学校		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	<p>で授業を行った。子供たちにも感謝され、良い関りが持てた</p> <p>歌が好きな方は、地域のお祭り、学園祭、発表会のステージに立ち歌う事もある</p> <p>ストレスがたまるとご家族と電話でお話し、落ち着かれる方もみえる</p> <p>時々買い物や、その他、色々な理由で外出にお誘いし、外の空気を吸いストレス解消の機会を作っている</p> <p>食べたい物がある時はケアプランの計画に入れ、外食や、買い物で買って来る等してご希望が叶えられる様にしている</p> <p>昔から飼ってお世話をしている犬と入居し、犬の世話をしてみえる</p> <p>TVのYouTubeで、好きなテレビや好きな音楽を聴いている</p> <p>小説を読みたい方は図書館で本を借りて読んでいる</p> <p>料理したり、洗濯物を干したり、畳んだり、買い物した物を運んだり、何か役割を持って過ごして頂いている</p> <p>季節の花見に出掛けている</p> <p>障子の張替えをした</p> <p>編み物・習字・絵手紙クラブがある、また作った作品は、学園祭や、地域の作品展に出展している</p> <p>入居者さんが描いた絵が、市の認知症サポート企業のステッカーの絵に選ばれた</p>		
49	(18)	○日常的な外出支援	お出掛けや、人と話すのが好きな方は、地域のサロンに出		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	<p>掛け催しを楽しんでいる</p> <p>ご家族と一緒に泊りで旅行に行く方もみえる</p> <p>買い物や、図書館など、希望の場所に出掛ける機会を作っている</p> <p>昔なじみの豆腐屋さんに出掛けた</p> <p>夜デンパークのイルミネーションや花火、一色の大提灯などを見に出掛けた</p> <p>イチジク狩りに出掛けた</p> <p>お墓参りにお連れした</p> <p>回転ずしに出掛けた</p> <p>季節のお花見(さくら・あじさい・秋桜・もみじなど)に出かけた</p> <p>高校生の定期演奏会を聴きに行った</p> <p>ご家族が頻繁に喫茶店などにお連れして下さる方もみえる</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を管理する事が難しくなっている方がほとんどで、施設でお小遣いをお預かりし、管理しているが、ご希望でご自身でお金を持ってみえる方も居る。時々必要時お金を使って買い物やお賽銭を入れたりしてみえる 買い物に出掛けた時にスタッフ見守りの元で(施設管理のお金)支払いをお願いする事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年ご家族や、地域の方に、入居者さんが描いた暑中見舞い、年賀状を送っている ご希望時ご家族に電話しお話をしている 携帯電話をお持ちの方もみえる 毎晩ご家族から電話があり声を聞かせて下さっている ご家族と交換日記をしてみえる方もみえる(現在はスタッフとのやり取りが主になって来ている)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設は畳や木を取り入れた、家庭的な雰囲気の作りになっている 窓が大きく、自然な日の光が入るようになっている 日々の写真を壁に掲示し、見て楽しい思い出話ができる様になっている 季節に合わせた絵手紙や習字、ちぎり絵などの作品を掲示し、季節感を感じられる様にしている お花を飾る機会を作っている エアコン、床暖、加湿器などで、季節に合わせて過ごしやすい環境に調整している 中庭で季節の花を育てた 毎日掃除をしている 暖かい日は窓を開け、外の空気を取り入れている 隣の幼稚園の子供の声が聞こえる		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人がお使いの椅子以外にも、椅子やソファがあり、その日の気分によって座る場所を変え、思い思いに過ごす事が出来る 仲の良い入居者さんとそれぞれのお部屋でお話しされたりする事もある ゆったり過ごせる環境を整備している テレビを見たり、本を読んだり、思い思いの過ごし方をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室に犬を飼ってみえる方もいる 家具やカーテンは好みの物や、使い慣れた物を持ち込んで頂き使っている 昔の思い出の写真、家族の写真や好きな動物の写真を飾ったり、花を置いている方もみえる 音楽が好きな方はお部屋にCDラジカセがある スタッフと一緒に整理整頓をしている 月に1度の大掃除では、ご家族も一緒にお部屋の片づけをしてきている 布団やベッド、ご本人のADLに合わせた寝具がある 仏壇を置いてみえる方もいる 湯たんぽを使う方もいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物はバリアフリーで廊下も広い、車椅子の方でもトイレに入りやすい 車椅子の方でも洗濯物をたたむお手伝いが出来る キッチンが広く、多くの方がお手伝いをしやすいようになっている お部屋が分かりやすいように表札がある 居室から外に出て洗濯物や布団が干せる 廊下には手すりに変わる、つかまれる戸棚がある、また途中で疲れた時は座れるスペースがある 必要に応じベッドセンサー・ナースコールを使用する 背筋を伸ばせる様に手を拭く紙が少し高い位置に設置してある		